

平成 29 年 2 月 27 日

富良野市議会議長 北 猛 俊 様

市民福祉委員長 今 利 一

## 委員会事務調査報告書

平成 28 年第 4 回定例会において、継続調査の許可を得た事件について、下記のとおり結果を報告します。

### 記

- 1．調査案件  
調査第 5 号 市民の文化推進について
- 2．調査の経過及び結果  
別紙のとおり

## 市民の文化推進について

市民福祉委員会より、事務調査第 5 号「市民の文化推進について」の調査経過と結果について報告する。

本委員会では担当部局より資料の提出と説明を求め、市民の芸術文化活動の現状と課題の把握に努め、先の第 4 回定例会で中間報告を行った後、都市事例調査を行いながら調査を進めてきたところである。

芸術文化活動は市民生活に心の豊かさと潤いをもたらし、個性豊かな地域文化の創造の基盤をなすものである。しかし現在、人口減少社会の進行や少子高齢化により次世代への文化の継承が困難な状況になっていることから、芸術文化活動を支援する環境を整備し、個性豊かな地域づくりを進めることが求められている。

本市の芸術文化振興は、これまで教育委員会を中心とした中で様々な施策が行われてきたが、平成 28 年 4 月に文化・スポーツ部門が市長部局に移管され、まちづくりの観点から総合的かつ効果的に推進されているところである。

芸術文化施策の具体的な事務事業は多岐にわたるところであるが、本調査では富良野市第 7 次社会教育中期計画に定める芸術文化活動の、文化活動への参加促進と自主的な文化活動への支援、芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供、地域の文化活動を推進する文化団体との連携・協力、施設の整備・充実と有効活用に主眼を置き、平成 28 年度富良野市社会教育推進計画に掲載される 10 の芸術文化事業を中心に調査を行った。

### (1)富良野芸術文化事業協会への支援事業

市民に優れた舞台芸術や芸術作品の鑑賞機会を提供し、地域の文化振興に役立てるため、富良野芸術文化事業協会への支援が行われている。平成 27 年度はパントマイム、平成 28 年度はコンサートの開催を支援している。また、平成 28 年度はこれらに加え市制施行 50 周年記念事業として、NHK の公開放送収録と札幌交響楽団の富良野公演を行っている。

### (2)子ども芸術鑑賞教室事業

児童生徒を対象に優れた舞台芸術の鑑賞機会を設け、感性豊かな人間形成を育むことを目的に、平成 27 年度はピアノ・バイオリン演奏、平成 28 年度はミュージカルを実施している。

### (3)文化団体の育成事業

文化団体の育成と各団体の主催する事業への支援を行い、地域文化活動の推進と活性化が図られている。富良野市文化団体協議会への補助金交付と文化功労賞・奨励賞表彰事業への協力が行われている。また、同協議会へ加盟する団体数は平成 28 年度で 61 団体、10 個人、会員総数は 842 名となっており、近年は減少傾向にある。

#### (4)市民総合文化祭事業

郷土芸能、文化活動の成果を広く市民に発表する場を提供し、文化団体の交流、文化の振興が図られている。平成 27 年度は市内 4 会場で開催され、来場者数は次のとおりである。

(会 場)	(開催日)	(延来場者)	(展示作品)	(芸能発表)
富良野	11/1 ~ 11/3	2,260 人	1,319 点	28 団体、472 人
布部	10/31	50 人	65 点	30 人
山部	11/1 ~ 11/3	1,202 人	949 点	49 人
東山	11/2 ~ 11/30	480 人	397 点	120 人
民謡発表会	10/18	120 人	-	民謡会 5 団体

#### (5)ふらの演劇祭事業

「演劇のまち富良野」を目指し、市民、小中学生による演劇祭が開催されている。開庁 100 周年を機に次世代に受け継ぐ事業として、過去から未来を学ぶ演劇が行われている。平成 28 年度は第 14 回ふらの演劇祭が 10 月 8 日から 10 月 10 日に演劇工場で開催されている。

#### (6)富良野地区文化団体交流会事業

富良野沿線の文化団体関係者が集い、日頃の活動分野の発表と交流を行い、広く文化活動の振興を図っている。富良野沿線の各市町村の輪番で開催されており、平成 28 年度は 10 月 23 日に富良野文化会館で基調講演、芸能発表、交流会が開催された。

#### (7)富良野市文化振興基金の充実・運用

市民の文化意識向上と地域の文化振興のため、芸術文化振興、文化保護、その他団体育成の事業に対し、基金条例に基づき助成が行われている。又、芸術文化活動に資するため、様々な全国大会等へ派遣助成について、現在、関係団体、学校等と協議・検討が行われている。

#### (8)市民の文化活動の推進

多様化する市民ニーズに積極的に対応するため文化会館が利用されている。文化団体、サークルによる自主的な発表会、展示会を後援し、文化活動の奨励を通して市民参加と鑑賞機会の充実に努めている。平成 28 年度の支援として「好きな人の似顔絵展」(5 月 2 日 ~ 5 月 15 日開催)、「赤い羽根共同募金ぬり絵展」(9 月 29 日 ~ 10 月 14 日)が行われている。

#### (9)富良野演劇工場の運営事業

富良野演劇工場の運営に指定管理制度を導入し、民間活力を生かした住民サービス向上と、芸術文化活動の場が提供されている。さらに富良野からの芸術文化の発信を目指している。平成 27 年度舞台ホール利用者 16,486 人。自主事業として芝居 3 事業で 10

公演、音楽 1 事業で 2 公演、ダンス 1 事業で 1 公演、他に工場まつり(コンサート、ファッションショー・ダンス、模擬店)が開催されている。

#### (10)北海道舞台塾ふらの事業

舞台塾の裾野の拡大や人材の育成、幅広いネットワークの形成を促進するため、北海道、近隣市町村、関係団体と連携し「北海道舞台塾ふらの」事業が開催されている。道内各地域で舞台芸術に関するワークショップ・セミナー、演劇の公演、舞台芸術活動の底辺を広げ開催されている。平成 27 年度の実績として、演劇創造活動事業(富良野塾 OB 舞台創作事業)、演劇に親しむ機会づくり事業(富良野塾 OB ユニット公演)、演劇リハビリテーション、舞台技術と演劇ワークショップが開催されている。

また、議論の中で、効果的な事業推進が行われているのか検証が必要とされたことから、平成 27 年度の富良野市教育行政評価報告書について検証を行った。芸術文化に関する 5 事業(富良野芸術文化協会事業、子ども芸術鑑賞教室事業、市民総合文化祭事業、ふらの演劇祭事業、舞台塾ふらの事業)の事務事業点検・評価シートの検証を行い、評価と課題、さらに今後の取り組みをどのように行っていくのか調査した。その結果、いずれの事業も達成度及び効果度について適正に評価されており、市民の芸術文化活動の支援がおおむね効果的に行われていることが伺えた。

本委員会として市民の文化推進について、調査において確認された事項を踏まえ、意見交換を行ったところ次の意見の一致を見たところである。

1 点目は文化活動の二極化である。本市の文化振興の現況を見ると一つは演劇工場を中心にした文化活動である。指定管理者制度を導入し民間活力を生かした事業展開により「演劇によるまちづくり」を標榜し、全国にその活動が発信されるなど芸術文化活動の拠点となっている。演劇祭では市民が参加し、参加した小中学校では演劇力の向上はもとより、コミュニケーション能力の向上が見られその効果の大きいことがあげられている。もう一方は富良野文化会館を中心にした市民文化活動である。文化団体協議会に所属する加盟団体を中心に市民総合文化祭を開催し、日頃の文化活動の発表の場として広く芸術文化活動が行われている。しかし参加団体個人の減少が見られ、特に若い世代の市民へ芸術文化に親しむ機会を拡充することが課題になっており、文化団体活動への理解を深めることが求められている。このように文化活動が二極化されている現状であるが、お互いの利点を融合させ相乗効果をあげていくことを今後検討されたい。

2 点目は芸術文化活動の継承である。文化活動の継続性については冒頭でも触れたところであるが、特に過疎地では高齢化や人口減少により地域が衰退する中、その活動をどのように守り、地域に文化を根付かせていくためにはどうしたらよいのか大きな課題となっている。人と人との関係が以前と比べ薄くなっていることも取り上げられるが、芸術文化活動を通じて交流を増やしていくことが地域の魅力づくりにもつながる。そのため文化に触れる機会、参加する機会を増やし、伝承していくことが重要である。

3点目は若く新しい芸術文化活動である。2点目で芸術文化活動の継承に触れたところであるが、その継続性を保っていく上では、若い世代の活動を伝えていくことが求められる。若い世代が何を求めているのか、それをどのように伸ばしていくのか、ニーズを捉え新しい感性の芸術文化活動を振興することも必要である。その上で古いものと新しいものが融合し、総合的な文化活動としてまちづくりの振興発展にも役立っていくと考えられる。

4点目は活動情報の集積と提供である。文化活動が広がらない理由の一つに、団体や個人の文化活動が市民にあまり知られていないことがあげられる。様々な文化活動について視野を広げていくと、文化協会等に所属せず活動するサークル、団体、個人が存在し、誰がどのような活動を行っているのか知られていない事例がある。文化活動を広く市民に知ってもらうために、その情報を集積し、必要とする情報を市民に伝えられるような仕組みづくりが必要と考える。

人と人とのつながりの希薄化、地域間コミュニティの不足が叫ばれる中、多くの自治体はこの事態をどう乗り切るかを模索している。人と人との繋がり深い芸術文化活動はこうした警鐘を鳴らすだけでなく、まちづくりに大きく寄与している。富良野の文化継承、振興にあたってはこれまで活動を続けてきた各団体への支援のみならず、各地にある小さな団体にも目を向け、活動を継承していくシステムづくりに努められたい。以上、本委員会からの報告とする。